

学校現場におけるスポーツ用サポーターの運用



大伴茉莉奈^{1,2)}、鳥居俊³⁾

1) 国立スポーツ科学センター 2) 早稲田大学スポーツ科学研究センター 3) 早稲田大学スポーツ科学学術院



目的 - 保健室へ来室した生徒への対応方法として、スポーツ用サポーターの有用性を検討

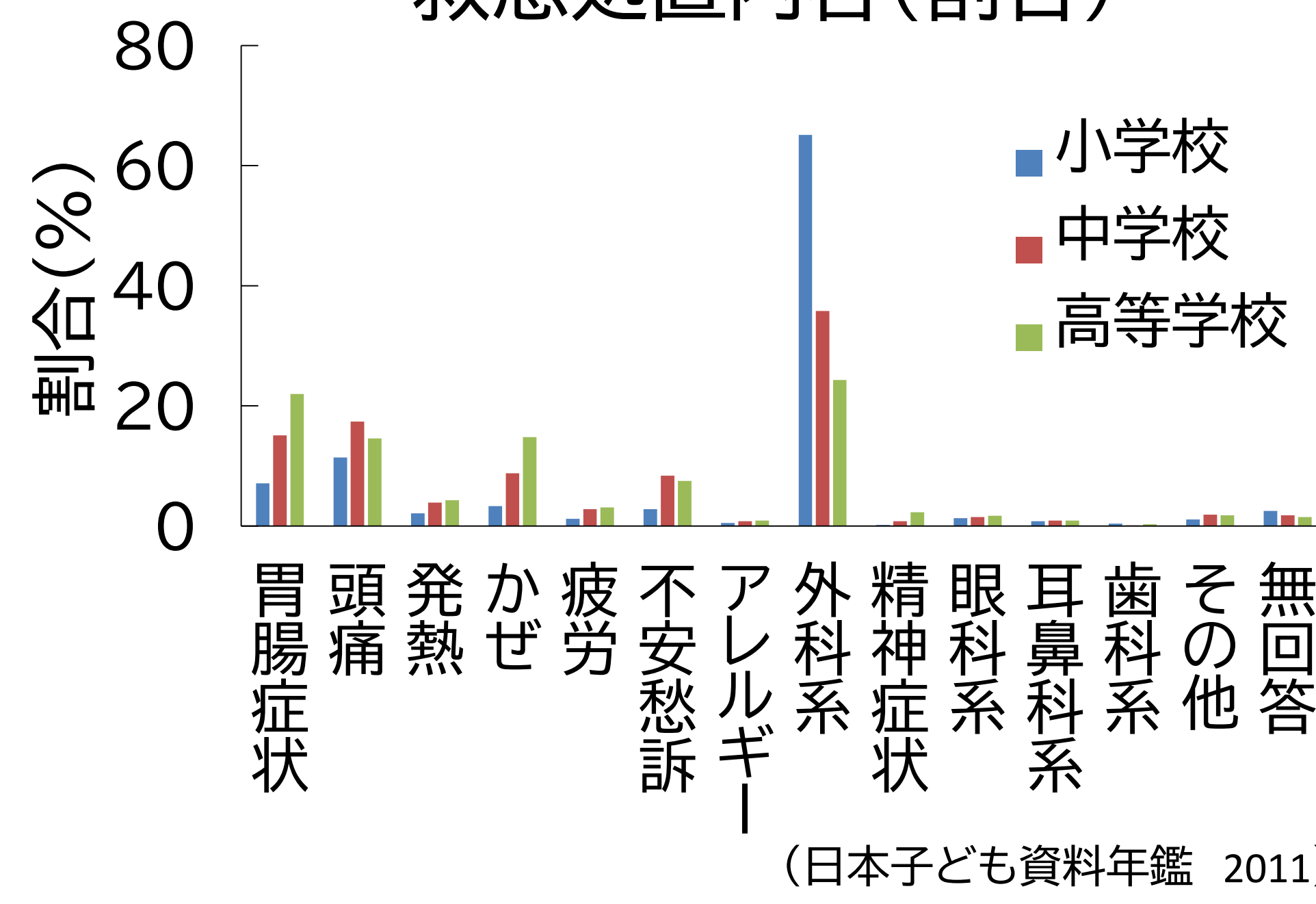
背景 - 学校現場での運動器(整形外科)疾患への対応は難しい

問題①

学校現場では**運動器(整形外科)疾患**が多く発生する
⇒ 養護教諭が対応する



救急処置内容(割合)



問題②

養護教諭は**運動器(整形外科)疾患**について詳しくない
⇒ 教育を受ける機会が少ない (大伴ら 2015)

簡単に適切に対応できるといいな...



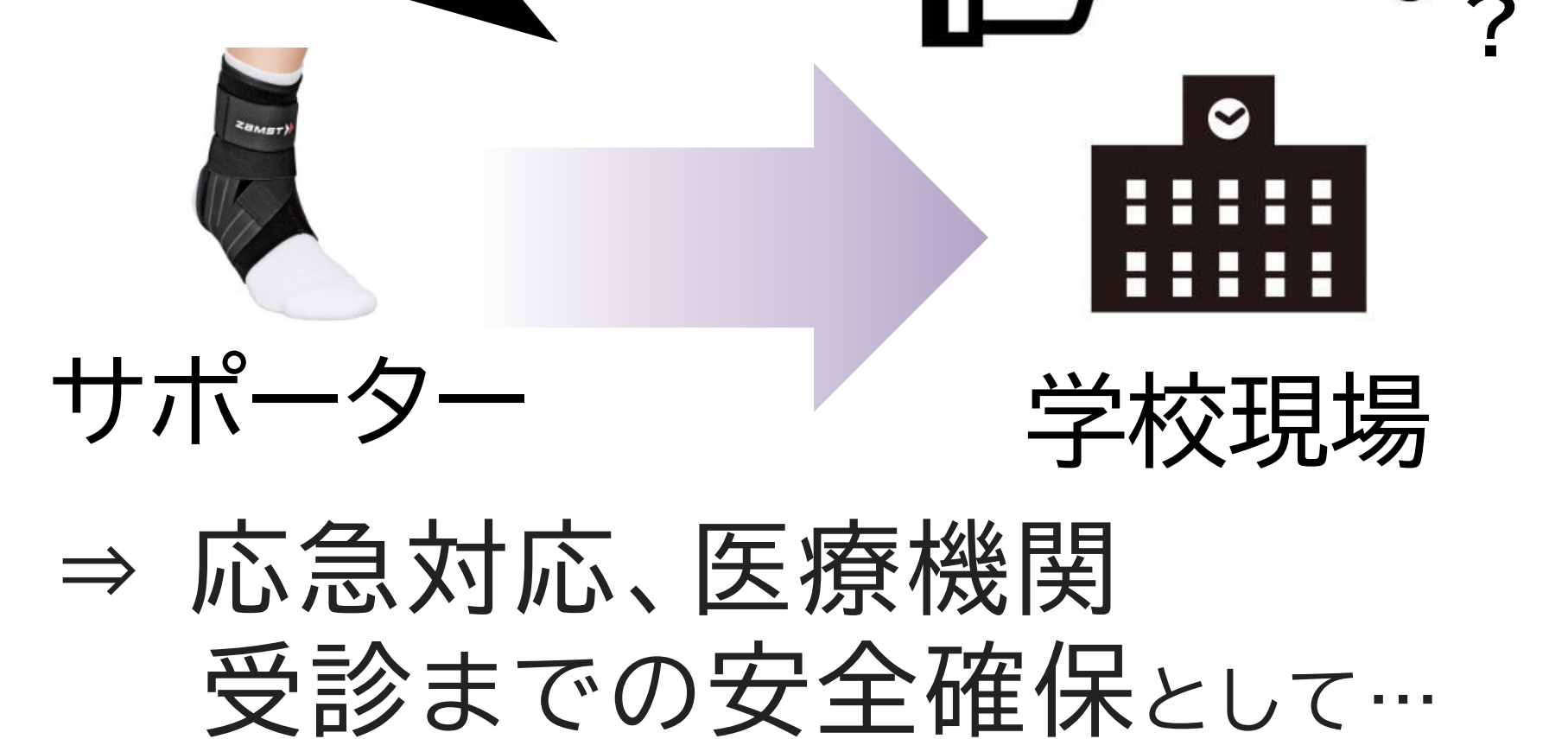
問題③ RICE処置後 ⇒ 固定と圧迫



簡単に装着できるケガ毎に推奨品がある



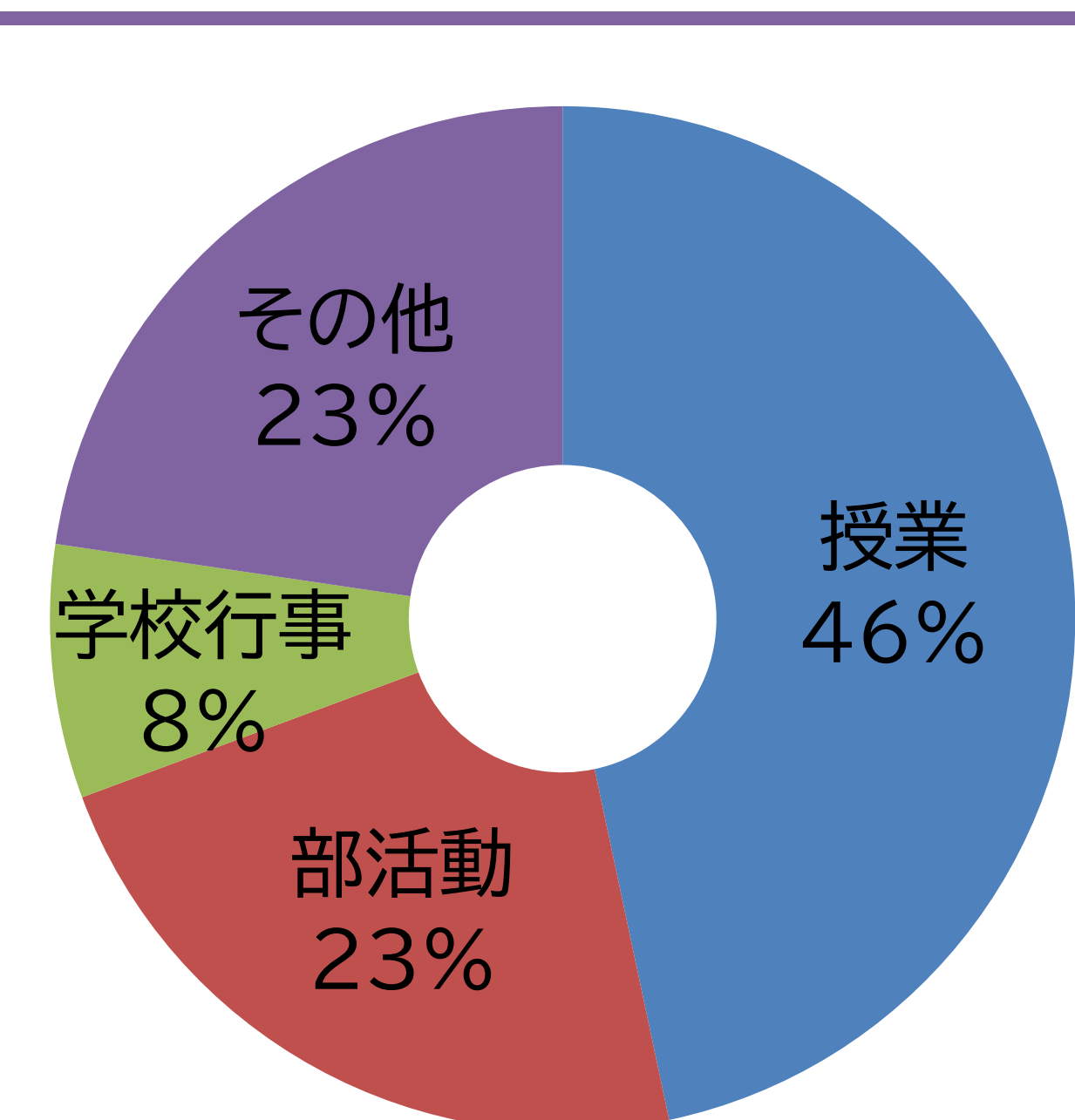
Question



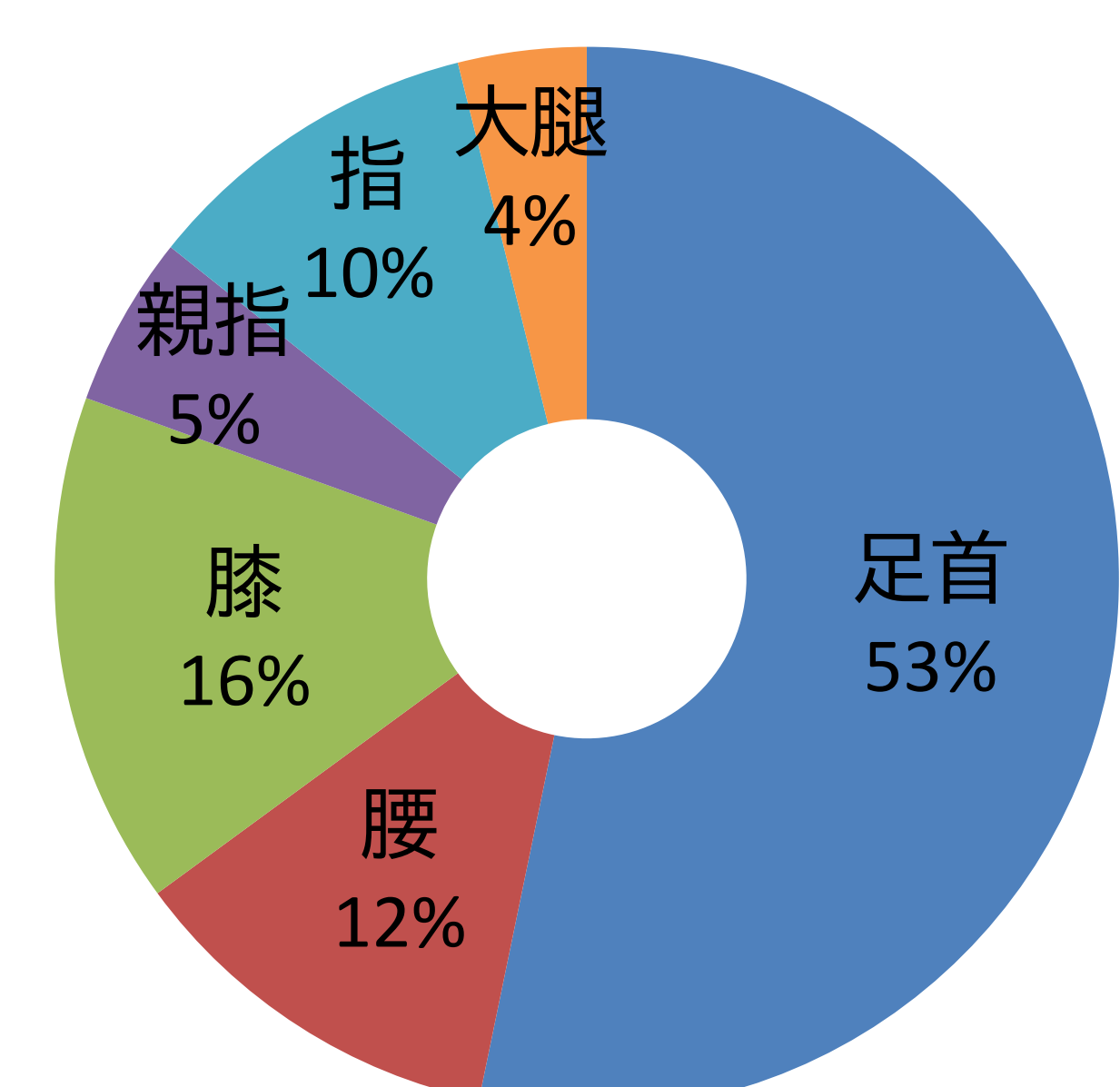
方法 - アンケート調査(統計:χ二乗検定)

対象：養護教諭9名、高校生77名 アンケート内容：ケガの状況について、使用満足度

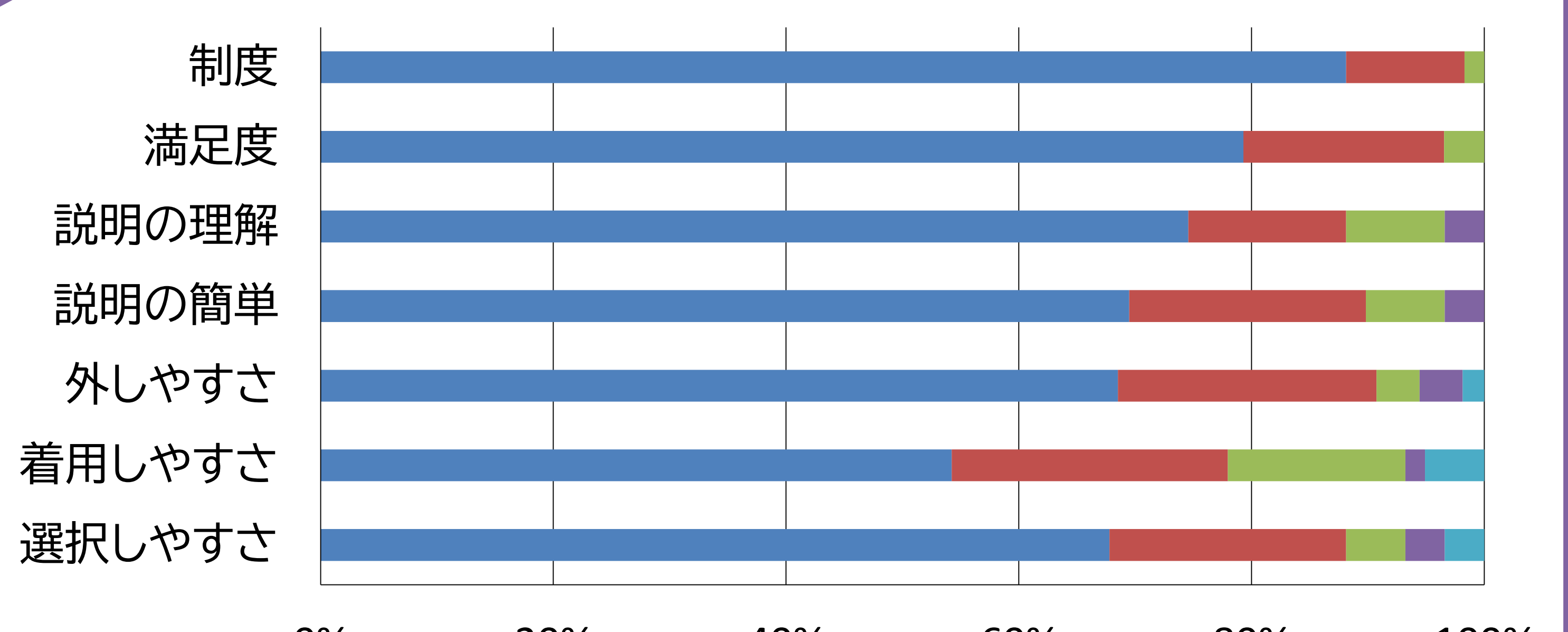
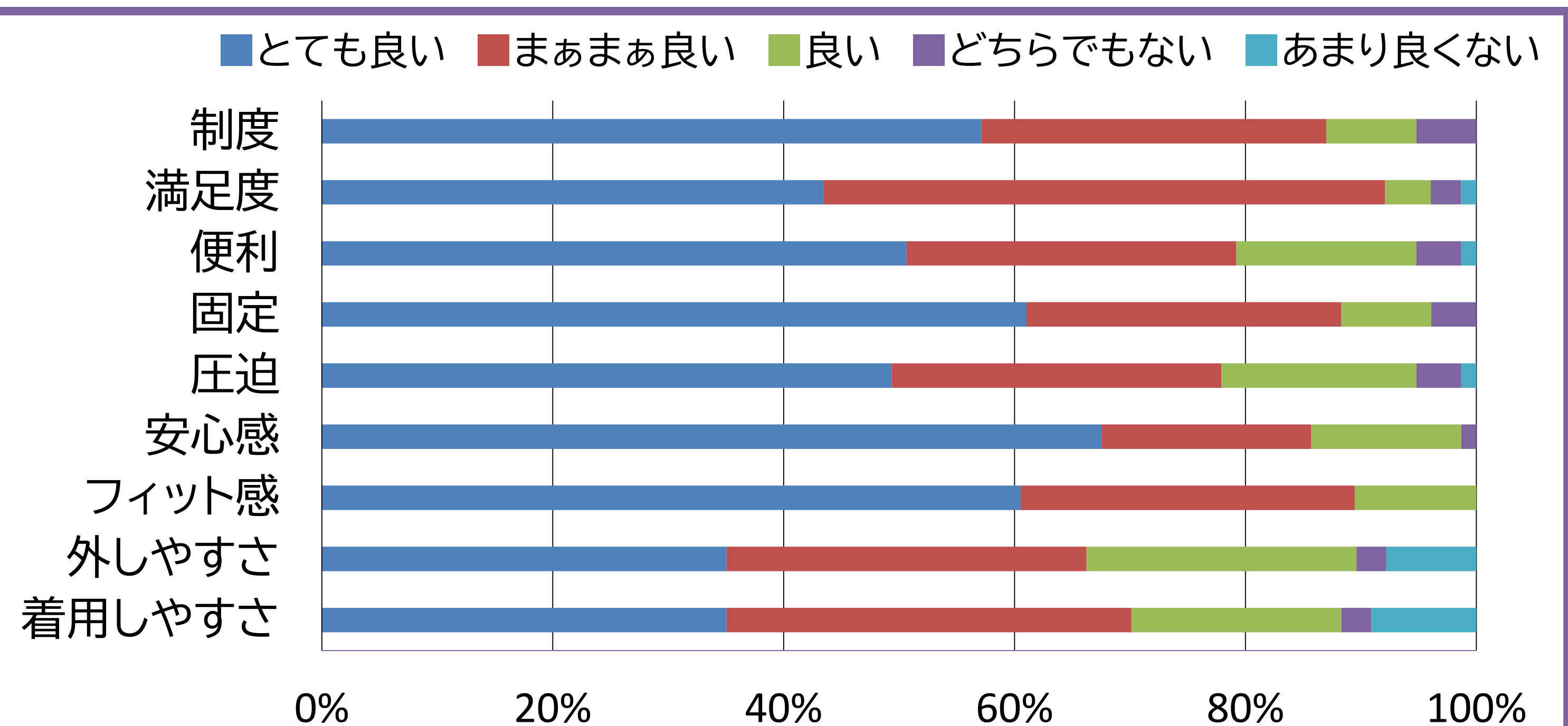
結果・考察 - 学校現場でのスポーツ用サポーターの使用は便利であった



授業が多い
✓ 体育の授業中
✓ 登下校中の階段
足首が多い
✓ 内反捻挫が多い
✓ ソフト素材の選択



9割以上が満足
✓ 安心感が得られる
✓ 着脱の改善が必要
教員の方が高い
✓ 処置として簡単
✓ 繰り返して使用可能



結論 - サポーター使用は有形的である可能性